

出張報告書

日程及び訪問記録

- 8月9日（土）
羽田空港周辺にて前泊

- 8月10日（日） ベンガルール
羽田発（11:50 発 AI357）
デリー発（20:00 発 AI2809）
ベンガルール着（23:00 着）

- 8月11日（月） ベンガルール
トヨタ・キルロスカ・モーター訪問
インド工業連盟訪問
カルナータカ州政府及びベンガルール市役所訪問

- 8月12日（火） ベンガルール及びデリー
インド全国ソフトウェア・サービス企業協会訪問
在ベンガルール日本領事館訪問
ベンガルール発（18:05 発 AI2820）
デリー着（21:00 着）

- 8月13日（水） デリー
インディゴ訪問
エア・インドゥア訪問
在インド日本国大使館訪問
デリー発（19:05 発 JL030）

- 8月14日（木）
羽田着（6:45 着）
羽田発（8:05 発 JL201）
セントレア着（9:00 着）

トヨタ・キルロスカ・モーター訪問

日 時：令和7年8月11日（月） 9：10～10：30

応対者：兼松財務部長ほか、現地説明担当者

訪問者：市長 ほか訪問団メンバー19名

- ・冒頭、トヨタ・キルロスカ・モーター社の概要について同社から説明を受けた。そのほか、スキル不足による貧困などインドが抱える社会課題やトヨタ自動車抱える課題を踏まえ、それらの解決に向けた同社が設立したインド・トヨタ工業学園をはじめとする人材育成の取り組み等について説明を受けた。
- ・その後、実際に同学園の視察を行い、担当者から同学園で行っているカリキュラムや施設概要の説明を受けたほか、成績優秀な学生から、現場で想定される作業工程のデモンストレーションを受けた。
- ・トヨタ自動車株式会社のインドにおけるこれまでの取り組みや今後の動向等を学べたことで、本市地域企業の海外展開支援等を検討するうえで参考となる意見交換を行うことができた。



<トヨタ・キルロスカ・モーター視察の様子>

インド工業連盟訪問

日 時：令和7年8月11日（月）12：30～14：00

応対者：ラビンドラ・スリカンタン インド工業連盟カルナータカ州議会議長

ほかインド工業連盟役員等11名

訪問者：市長 ほか訪問団メンバー19名

- ・令和7年6月にギータンジャリ・ヴィクラム・キルロスカー日本委員会共同委員長率いる、インド工業連盟のミッション団による市長表敬を受けたことをきっかけに、インド工業連盟のカルナータカ州議会メンバーと懇談を行ったもの。
- ・インド工業連盟からは、カルナータカ州と名古屋地域の産業構造の類似性について言及があり、特に航空・製造分野における技術力と人材の集積に共通点があることを強調され、今後、両地域が交流を深めていくことの可能性に期待を示された。インド側では、スタートアップ支援やイノベーション促進に向けた政策が進んでおり、両地域の企業間の交流の機会を広げていきたいとの発言があった。
- ・本市からは、インドとの連携を進めるうえで、ベンガルールを中心とした高度産業地域との連携は重要であるとの考えを示し、今後も継続的な交流を図ることで一致した。インド企業からカルナータカ州の経済情勢について直接伺い、同州がIT・航空・バイオテクノロジーなどの先端産業において急速な成長を遂げていること、またスタートアップ支援や人材育成に関する政策が積極的に展開されていることについて説明を受けた。



<インド工業連盟訪問の様子>

カルナータカ州政府

日時：令和7年8月11日（月）15：00～15：45

対応者：S・セルヴァクマール商工省筆頭次官（ベンガルール商工会議所同席）

訪問者：市長 ほか訪問団メンバー9名

- ・名古屋市とカルナータカ州商工省との間で、両地域の産業動向に関する情報交換、起業家や企業の事業展開支援、大学をはじめとする関係機関と連携した人材交流により経済交流を促進することの共同声明に署名した。
- ・カルナータカ州からは、両国間の総合的な連携が進んでいるなかで、経済分野ではグリーンエネルギー、物流、高付加価値化、大学とのパートナーシップが今後重要であるとの考えを示されたほか、カルナータカ州にはバイオテクノロジーやグリーンエネルギーの研究機関も集中していることの説明があった。
- ・今後、共同声明に基づきより良い連携に繋げていくことの確認を行い、カルナータカ州政府からは、持続可能な形で貿易や研究をはじめとした分野で両地域が連携していくことを楽しみにしているとのコメントがあった。



<カルナータカ州政府訪問の様子>

ベンガルール市役所訪問

日 時：令和7年8月11日（月）16：30～17：15

対応者：トゥシャール・ギリナート市長代理、M・マヘシュワール・ラオ コミッショナー（ベンガルール商工会議所同席）

訪問者：市長 ほか訪問団メンバー9名

- ・名古屋市とベンガルール市との間で、産業動向に関する情報交換や人材交流等を通じ、両地域経済の振興に連携して努めるにより経済交流を促進することの共同声明に署名した。
- ・ベンガルール市からは、サンフランシスコ市とは姉妹友好都市協定を締結しており、サンフランシスコからの訪問団を受け入れるなど、往来が続いていることの説明を受けた。また、ベンガルール市は環境問題を多く抱えているところ、廃棄物や排水・飲用水の管理について両市の情報交換が行われた。ベンガルール市からは名古屋市の取り組みを学んでいきたいので、今後の連携を楽しみにしているとのコメントがあった。
- ・本市からは、名古屋を日本のシリコンバレーとするべく、昨年度から開催しているTech GALAを成功させるためにも、ベンガルール市と交流を深めていきたいとの意向を伝え、今後、様々な場面を捉え経済交流を深めていくことを確認した。



<ベンガルール市役所訪問の様子>

NASSCOM（インド全国ソフトウェアサービス企業協会）訪問

日 時：令和7年8月12日（火）9：30～11：00

対応者：ナブラタン・カタアリヤ氏（C o E）

訪問者：市長 ほか訪問団メンバー18名

- ・名古屋市、中部経済連合会及びNASSCOMとの間で、両地域の産業動向に関する情報交換、起業家や企業の事業展開支援、大学をはじめとする関係機関と連携した人材交流により経済交流を促進することの共同声明を発表した。
- ・NASSCOMからは、インド政府の施策やディープテック分野のスタートアップエコシステムに関する取り組みのほか、世界で3番目となる114社のユニコーン企業が国内から生まれていることの説明を受けた。また、ベンガルールには国内ユニコーン企業の約半数が集積しており、インドスタートアップエコシステムの中心地であることの説明を受けた。その後、施設内の視察を行い、これまでNASSCOMが開発研究に関与した製品や、コワーキングスペースの見学を行った。
- ・本市からは、近年スタートアップ支援に力を入れているところ、Tech GALAではインドとの結びつきを重視しており、インドのスタートアップを集めるためのピッチイベントをベンガルールで開催することを伝え、今回の訪問を契機に、名古屋とインドのスタートアップエコシステムの連携を一層深めていくことの確認を行った。



<NASSCOM訪問の様子>

在ベンガルール日本国総領事館

日 時：令和7年8月12日（火） 12：40～14：30

対応者：中根勤総領事

訪問者：市長 ほか訪問団メンバー6名

- ・ベンガルール日本総領事館を訪問し、中根総領事との意見交換を行った。会談では、名古屋市が進めるスタートアップ支援や国際展開の取り組みについて説明し、インドとの交流をさらに深めていく方針を共有した。
- ・総領事からは、ベンガルールがインドのイノベーション拠点として急速に発展している現状や、日本企業の進出状況、現地でのビジネス環境についての説明があった。また、名古屋市の企業や大学がインド市場にアクセスする際の支援や、人的交流の可能性について意見交換を行った。
- ・本市からは、総領事館との連携を通じて現地関係機関との橋渡しを依頼し、日印間の地方都市同士の交流が、国家間の関係強化にも寄与するとの認識を共有し、継続的な情報交換と連携を図っていくことを確認した。



<在ベンガルール日本国総領事館訪問の様子>

インディゴエアポートセールス

日 時：令和7年8月13日（水） 10：50～11：50

対応者：プーナム・パトディア（Senior Manager-Aeropolitical&Industry Affairs）

シータル・マルジャ・ギラニ（Associate Director-International Sales）

訪問者：市長 ほか訪問団8名

- ・名古屋—インド路線の新規就航を要望するため、資料に基づきプレゼンを実施。
- ・インディゴからは、中部地域の企業がインドでのビジネス拡大をしていることは承知しているが社内検討に際し、名古屋—インド渡航者のうち、どの程度鉄道利用で東京発になっているか含め、需要を示すデータを提供してほしいこと。また、日本路線について、時期は未定だが新規就航に向け各地の需要データを検証しているとの発言があった。
- ・このほか、空港や行政からのインセンティブがあると就航可能性が高まるため検討してほしいとの要望があったほか、インド国内のJALとのコードシェアが進んでいるが、日本国内線のインディゴとのコードシェアは未実施のため今後実現に向けて推進していく予定であるとの発言があった。



<インディゴにおけるエアポートセールスの様子>

エア・インディアエアポートセールス

日 時：令和7年8月13日（水） 12：50～13：50

対応者：ディパヤン・ゴージュ（Head, Network Planning & Scheduling）

ラリット・シェオラン（Head, International Relations）

カルティキー・バット（Head, Slots and Airport Relations）

訪問者：市長 ほか訪問団メンバー8名

- ・名古屋―インド路線の新規就航のほか、アジア・アジアパラ競技大会の期間中のチャーター便の運航検討を要請。資料に基づきプレゼンを実施。
- ・新規路線のうち日本の優先度は高く検討しており、東京に次ぐ第二の就航地を検討しているところ。通常セオリーは関空であろうが、第二の就航地としてセントレアも有力候補である。また、日本の新規路線は機材が予定通り納入されれば2027年頃の就航になるが、セントレア含めて検討していきたいとの発言があった。
- ・そのほか、ANAとコードシェアしていることから、既存のコードシェア活用も検討していきたいと考えていることや、名古屋エリアの観光機関と話し情報収集に努めたいとのこと。また、名古屋から羽田経由での渡航需要ポテンシャルについて鉄道移動のボリュームは調査しにくいため何かしらデータが欲しいことや、アジア大会中のチャーター便も、定期便就航にむけた布石として前向きに検討したいとの発言があった。



<エア・インディアにおけるエアポートセールスの様子>

在インド日本国大使館訪問

日 時：令和7年8月13日（水）15：00～15：50

対応者：有吉次席公使、松野参事官、鈴木一等書記官

訪問者：市長 ほか訪問団メンバー8名

- ・有吉次席公使へ表敬訪問するとともに、現在のインドの現地情勢等について、ご説明いただいた。
- ・大使館からはデリーを始めとしたインド全域における経済状況やビジネス環境、人材雇用に対する注意点についての説明があり、日本とインドの関係強化に向けた意見交換を行った。
- ・本市からは企業ニーズとして北米とインドへの航空便を望む声を多く聞いており、名古屋ーインド路線の新規就航とアジア大会中のチャーター便の運航検討を要請した事を説明し、運航に向けた協力を依頼するとともに、現在はオープンスカイで運航に対する制限がされていないことを確認した。



<在インド日本国大使館訪問の様子>